センター通信

〒 123-0873　東京都足立区扇 1-12-20
TEL (03) 3856-2728　FAX(03) 5939-7880
URL　www.wfc.or.jp

「青少年福祉センターの歴史と、これからの課題」

理事　遠藤　浩（全国自立援助ホーム連絡協議会代表）

Ⅱ. これからの課題

前回（約1年前）は青少年福祉センターの歴史―終戦直後の困難な中で慈善事業として運営を始められた先達の、子どもたちへの熱い思いとご苦労―を書かせていただきました。

そして、慈善事業から福祉に移行するにつれ、私たちの心の中から「愛」が薄れていき、先達から引き継ぐべきものを失ってしまうのではないかという懸念をもって結びとさせていただきました。

今回は「これからの課題」ですが、1.「運営について」2.「子どもたちへの愛を失わないために」という二つの視点に分けて述べたいと思います。

1. 運営について

現在、青少年福祉センターは新宿寮、清周寮、おうぎ寮という3つの自立援助ホームと　暁星学園、あけの星学園という2つの高齢児童専門の児童養護施設、そして精神障がい者のためのグループホーム「ノエル」を運営しています。問題は、児童福祉法内に法定化された自立援助ホームやノエルは第二種社会福祉事業です。自立援助ホームが第一種社会福祉事業になっていれば児童養護施設と同じくらいの運営費が出ていたでしょう。しかし、全国自立援助ホーム連絡協議会はあえて第一種を選ばず、第二種を選びました。それは、第一種になると縛りがきつくなって、今までのような法の狭間にいる子どもたちを受け入れられなくなってしまうためでした。そうしたら行き場を失ってしまう子が一挙に増えてしまいます。先達の意思を尊重した結果、「武士は食わねど高楊枝」という形になりました。国が決めた自立援助ホームへの補助金の基準額は児童養護施設の約3分の1です。ノエルの補助金ももちろん少ないです。そして、定員 20 名でしかないあけの星学園も制度上大変に運営が厳しいです。こうしてみると、まあ、まあ、運営が可能なところは暁星学園だけということになります。

こういった現状ですから、運営資金を集めるために寄付金集めやバザーに奔走している理事がおります。子どもたちに貧しい生活をさせたくない、職員にも他の施設と同じ賃金を払いたい、研修もして欲しいと躍起になって動いています。これらの問題を解決するためには自立援助ホームの補助金がせめて児童養護施設並みになることと、あけの星学園の定員を 35 名程度に増やすことですが、日本の児童福祉を考えるとき、その道は険しく、厳しいことを覚悟しておかなければなりません。

青少年福祉センターがここまで続けて来られたのは、支援してくださる方々のお力があってのことと、改めて感謝の思いが湧いてきます。

2.「子どもたちへの愛を失わないために」

前回、ベッテルハイムという人が書いた本の題名、「Love is not enough」（愛だけでは十分ではない ）を引用させていただきましたが、ベッテルハイムは「愛」を否定しているわけではありません。私たちの仕事にとって Love が基になくては何も始まらないことは重々承知の上でこの言葉を使っています。ベッテルハイムは「愛」が基になければならないが、同時に、「その困難な中にある人々のために」どういった具体的な支援が求められているのかを明確にし、援助者が独りよがりの支援に陥らないことを警告しているのです。私たちは時にこの罠に陥ります。戦争や親の病気で孤児になってしまった子どもたちも辛い困難な道を歩いてきましたが、今、施設に来る子どもたちはもっと悲惨です。親を失った子は苦しみや悲しみの中でも「親が生きてさえいてくれたら」と、どこかで己の腑に落とすことができますが、今いる子どもたちは「親がいながらにしてなぜ」という不条理で癒しえない傷と一生向き合って生きていかなければなりません。そういった深い心の傷、そこから来る人間不信、虚無、失ってしまった自尊心、それらをどうしたら取り戻せるのか、それらを子どもたちが取り戻すためにはどういった援助が必要なのか？職員はケアワーカーとしての資質と研鑽が求められています。「Love is not enough」ということを職員ひとり一人が心の内に秘め日本で1法人しかない高齢児童専門施設としての高度なケア・ワーク論を見出していくことが青少年福祉センターに求められているのではないでしょうか。（おわり）

「成人式の集い」のご案内

～開催にあたって～

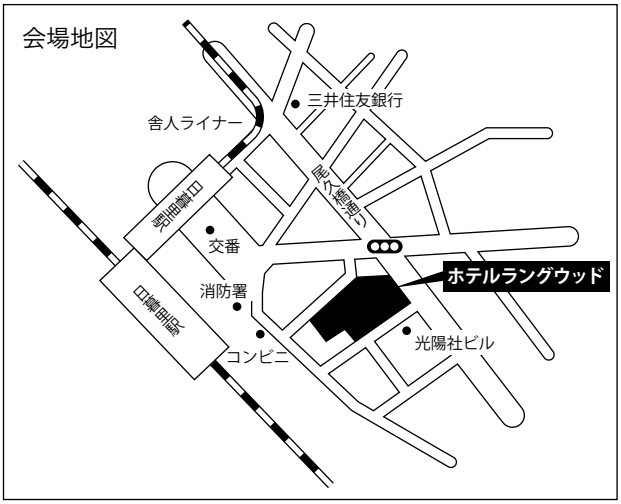
**　例年、自立援助ホーム清周寮では独自に成人式を祝う会を行って参りましたが、来春から法人全体で、成人式を執り行う事となりました。**

**　“事業所内のすべての子ども達に手作りの成人式をプレゼントしたい！”という思いで、法人全体をあげて成人式を祝う会に向けてプロジェクトを作り、職員一丸となって準備に取り組んでおります。**

昨年の清周寮での成人式の集い

–式次第–

1．理事長挨拶
2．ご来賓代表者様ご挨拶
3．成人各自挨拶ならびに記念品贈呈（各施設職員が成人者をご紹介致します）
4．在寮生代表挨拶
5．記念撮影
6．立食
7．ビンゴ開始
8．終了の挨拶



○ 日　時：平成 21 年 1 月 10 日（土）
　　午後 1 時～午後 4 時

○ 場　所：ホテルラングウッド
　　東京都荒川区東日暮里 5-50-5

【交通】

● JR 山手線・京浜東北線・常磐線／日暮里駅南口徒歩 1 分
●京成線／日暮里駅南口徒歩 1 分
●舎人ライナー／日暮里駅徒歩 3 分

～成人式プロジェクトより～
「法人全体で催す成人式パーティーを企画しています！！」

誰にとっても成人になるということは、素晴らしいものです。それは当法人を巣立っていった卒寮生・卒園生にとっても同じです。しかし、家庭環境の凄まじい変化の中で生きてきた子たちですから、成人を祝ってくれる親がいない場合がほとんどです。また引越し回数も多く、地元と呼べる場所がない児童も多いのです。通常であれば地元の成人式に出席するのですが、知り合いもいない中で、その式に参加する児童はわずかです。私たちは卒寮、卒園した子どもたちにとって実家の役割を果たしたいと思っております。

今まで、自立援助ホームの清周寮のみが成人式を独自に行って参りましたが、“事業所内のすべての子どもたちに手作りの成人式をプレゼントしたい！”という思いで、当法人全体をあげての成人式を企画しました。

人生で1 度きりの成人式、子どもたちにとって素晴らしい思い出の一日となるよう、職員一丸となって企画しています。現在、寮や学園に居る子どもたちにも、成人式に参加することで、自分たち自身も近い将来に祝ってもらえる楽しみを持って欲しいと願っています。

皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

長谷場夏雄著『かけがえのないあなたへ』のご案内

青少年福祉センター創設 50 周年を迎えるに当たって、当法人創設者の長谷場夏雄による著書が完成いたしました。

著書には DVD も付属しており、青少年福祉センター 50 年の歩みやインタビュー等を映像でもご覧頂けます。

職員と子どもたちと後援者の皆様で作り上げた青少年福祉センターの歩みと思い出の記録です。是非、ご一読下さい。

社会福祉法人 青少年福祉センター編
定価：1,800 円（DVD 付）

■お問い合わせ・ご注文は：
社会福祉法人 青少年福祉センター
電話 03-3856-2728
FAX 03-5939-7880
メールアドレス 2728 @ wfc.or.jp

法人内宿泊研修を行いました

センター開設 50 周年の今年、神奈川県湯河原町にて法人内合同宿泊研修を行いました。第 1 回目:7 月 10 日（木)･7 月 11 日（金)、第 2 回目:7 月 14 日（月)･7 月 15 日（火）の 2 日程に分け開催し、長谷場専務理事の講演、各事業所事例発表会、グループワークと充実、意義深い研修となりました。

長谷場専務理事の講演「我々の仕事とは」

事例発表の様子　各事業所の日頃の取組を発表

スケジュール

【1 日目】

① 荒船常務理事の挨拶（15：00 ～ 15：05）
② 長谷場専務理事講演「我々の仕事とは」(15：05 ～ 15：50)
③ 事例発表（発表 15 分 + 質疑応答 5 分）(15：50 ～ 17：50)
　清周寮 新宿寮 おうぎ寮 ノエル 暁星学園 あけの星学園
④ 湯河原千代田荘にて会食（18：30 ～ 20：30）

【2 日目】

① 朝食後、各グループワーク
　班別行動（6：00 ～）
② 各グループワーク終了後、昼食
③ 昼食後、帰路へ
④ 解散

～研修を終えての感想～

【長谷場専務理事の話について】

- 養護原点・本質のお話をうかがえて大変意義のある研修だった。先生の熱い思いを感じられた。
- 創設者の話が聞けて良かった。先生のお話を聞いて初心に帰ることができ、ありがたかった。

【事例発表について】

- ケースや意見を聞け、各事業所の取組内容や姿勢が感じられ非常に刺激になり、処遇の参考になった。
- もっと勉強したいと考える契機になった。自分にとって意義深い発表会だった。
- 各事業所での処遇への熱意が伝わってきた。処遇の課題に対して、全体の共有がなされたことが有意義だった。

【研修会全般について】

- 同じ志をもつ職員同士で、センター開設５０年目を研修会という形で交流を深めることができ、大変有意義に感じた。
- 他事業所と親睦が深まり、交流ができて良かった。事例発表と交流会もとても楽しくできた。元気がでた。
- 日常の場から離れ、全事業所が集まっての研修、とてもリフレッシュすることができた。

各施設の紹介

行事を中心に子どもたちの様子をお伝えします

自立援助ホーム 新宿寮（新宿区）

盛夏、夏を満喫したい寮生と職員が集合。照りつける日差しと陽気な音楽が気分を高揚させ、車に揺られること２時間半、千葉の館山に辿り着いた。

どこまでも続く海岸線、一面に広がる大海原。母なる海に抱かれるため、僕らは駆け出していた。メタボリックな身体が、脂肪をうねらせて揺れていた。

海中で泳ぐ小魚に負けないくらい、僕らはトビウオになった。眩しい太陽に負けないくらい、僕らは笑った。

帰りに、火照った身体を鎮めるため、温泉に入った。逆に激痛で泣いた。羽織った浴衣が小粋で、皆の背中が心なしか大きく見えた。

今年の心のアルバムの１ ページに、この暑い夏の一日が刻まれた。

自立援助ホーム 清周寮（足立区）

今年、清周寮は８月３１日から1泊２日で福島へ旅行に行ってきました。

１日目はいわき市にある「スパリゾート・ハワイアンズ」へ行き、広大なプールと≪フラガール≫のダンスを堪能してきました。

初め、子どもたちは人の多さに驚いたのかプールサイドをウロウロしていましたが、プールに入ってからは大はしゃぎで遊んでいました。その後、溜まった疲れを温泉で癒し、みな心なしかスッキリしていたように思います。

２日目は小名浜にある水族館「アクアマリンふくしま」へ。とても興味深い生き物ばかりで、中でも大きなセイウチとマイワシの大群は圧巻でした。

寮に近づくにつれ顔から笑顔が消えていく子どもたちの様子を見て、この子たちにとって旅行は非日常的で現実世界を忘れることのできるとても貴重なものであるのだとしみじみ感じました。

子どもたちの笑顔のために、楽しい行事をこれからも考えていこうと思います。

児童養護施設 暁星学園（足立区）

毎年の恒例行事であるキャンプを7月２６日～２８日に実施しました。テント張りや食事作りに加えて、アウトドア教室に参加するなど、日常生活ではできない体験をしてきました。

その中から、高原探索教室に参加したＨ（女の子）の様子をお話しします。高原探索教室は、100 m程度登山しながらそこに生きる動植物を探し、学習するというプログラムでした。教室が始まりすぐの説明で、登山があると知ったＨは、「絶対無理だし。参加したくない。」と言い、不機嫌そうに歩き始めました。しかし、真剣で苦しそうに頑張って登っている周りの様子を目の当たりにし、徐々に不機嫌な顔は真剣な表情になっていきました。なんとか山頂に着いたＨは、「景色を見て気持ちが晴れたし、諦めずに登れて自信がついた。」と話してくれました。

今後も人生の山を目の当たりにし、諦めたくなる事もあるかもしれませんが、努力して登る経験を繰り返し積極的に登って欲しいな、と強く思った瞬間でした。

児童養護施設 あけの星学園（新宿区）

８月８日、茨城県の大洗サンビーチに行ってきました。この日は朝から天候に恵まれ、絶好の行楽日和。手作りのお弁当を持って、出かけました。

暑さからか、気持ちの高ぶりからか、前夜睡眠時間の少ない子が多かったようですが、行きの車中ではみんな盛り上がっていました。

ビーチに着くと、海に駆け出す子どもたち。飽きもせずに、浮き具で波に乗っていました。この日、体調が今一つで海に入れなかった子も、波打ち際で足を海水につけたり、貝拾いをしたりして楽しみました。

いつもはインドア系の行事を好む子どもたちですが、真夏の海水浴は特別。時を忘れ、休憩も取らずにずっと海で遊んでいました。

浜辺のすいか割りや海で、普段は見られない子どもたちのはじけた姿や、とびきりの笑顔を見ることができました。子どもたちが笑顔になれる行事を、また企画したいと思います。

各ホームの日常の様子をお伝えします

自立援助ホーム おうぎ寮（足立区）

「玉子焼き、作れる？ 厚焼きだよ！」

「やったこと無いし、わからない。」

何でも経験…やってみる事が大事だし、やった事があるだけで違ってくる。

失敗談も言えないようでは面白くない。社会人になると学生の時と違い、幅広い年齢の方とのお付き合いも出てくるしね。「会話」も必要になるよね。これが結構難しい。これからは何でもやってみようよ。「今日初めて厚焼き玉子を作ってみました。」なんて話もいいかもね。決して貴女方のお弁当の玉子焼きを作りたくないのではありません(笑)

その話から３日間、おうぎ寮の食卓には厚焼き玉子が沢山。長谷場先生のは、だし巻。その他、甘〜い物、塩味、そして真っ黒くろすけ。ほうれん草・ハムが入ったものまで登場。

日常の普通の事を沢山経験して欲しい。おばあちゃんからお母さんに、そして子に…といった光景をおうぎ寮のお土産にしたいと思っています。貴女のポケットに沢山のもの、入れて下さいね。さあ、今日は久しぶりに、厚焼き玉子の復習の日です。

精神障がい者グループホーム ノエル（足立区）

利用者の方々とお茶の時間にテレビを見ていたときのこと。

ある中高年男女のホームレス生活についての特集だった。

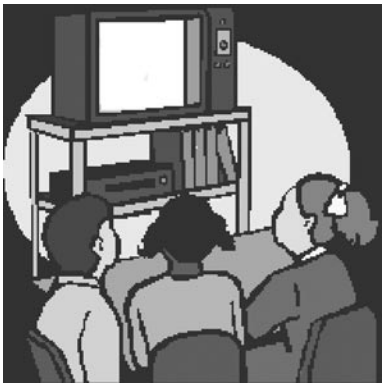
２人は相手が生きているということを生き甲斐にしながら日々を送っていた。それを見たYさんは「何か、わからないけど愛があるよね。」と言ったので周りは驚いた。Yさんはいつも、お金もないのに結婚とか子供をつくるなんておかしいと言う人だったから。

人とのかかわりを避けたがるYさんは潔癖のように見えるが、人生で失敗を繰り返してノエルに来た仲間たちを、失敗したことで駄目と決め付けたりはしない。

それよりも、今日も一緒にいるね、夕食おいしかったね…と、当たり前に過ぎていく一つ一つを日々大切に抱きしめる。

「心の貧しい人は幸い」の答えは神の恵みをがむしゃらに受け取るからだという老哲学者の話を聞いたことがある。

Yさんは小さな絆も、思いやりも丁寧に噛み締めながら生きているのかもしれないと思う。



清周寮祭を開催しました！

10 月 18 日（土）、自立援助ホーム清周寮において恒例の清周寮祭を開催しました。当日は卒寮生やその子どもたち、職員が大勢参加して、大変盛況に終わりました。

2008 Home Coming Day
『清周寮祭』

～スケジュール～

８：30～　準備開始（会場設営、食事作り、食堂セッティング、屋台、遊具セッティング）
12：30～　寮祭開始
15：30　寮祭終了
15：30～　後片付け・清掃
17：00　終了

清周寮では年に一度、巣立った卒寮生を招待して清周寮祭を行っています。

子どもを引き連れて訪問する者もあり、当日は庭を走り回る子どもたちの賑やかな声や、卒寮生同士や職員との久しぶりの再会に歓声があがったり、思い出話や近況を語り合ったりと、微笑ましい光景が見られました。

それぞれにとって貴重な時間であり、毎年この日を楽しみにしている卒寮生も多いようです。

沢山のごちそうと皆の笑顔を囲んで「ハイ、チーズ！」

―歳末のお願い―

青少年福祉センターは、本年で事業開始５０周年を迎えました。当法人が５０年の長きにわたり活動してこられましたのは、ひとえに皆様のご支援あってのことと、役職員一同感謝しております。

青少年福祉センターの運営のため、その運営資金を補助金やバザー収益にて賄っておりますが、それだけでは資金が不足しております。その多くの不足分を後援者の皆様からの寄付金に頼って活動しております。

毎年のことで恐縮ではございますが、何卒子どもたちのためにご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

郵便振替　00170-4-96636
社会福祉法人　青少年福祉センター
TEL 03-3856-2728
FAX 03-5939-7880
〒123-0873　東京都足立区扇 1-12-20